



港区立高松中学校 学校だより〈第11号〉

令和2年3月9日 校長 鈞持 利行

創立1949年(昭和24年) 〈高松中生のあたりまえ〉推進校 港区高輪1-16-25

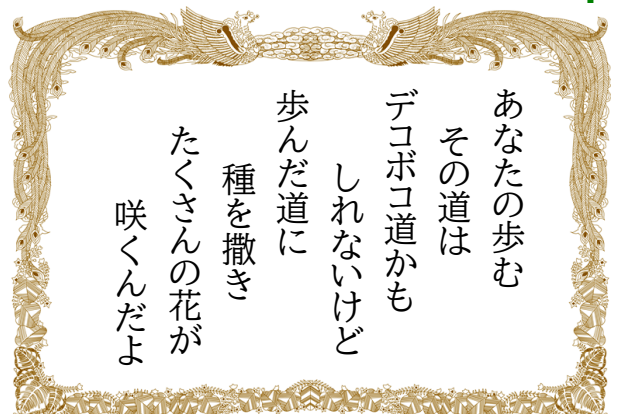
種をまく時季

校長 鈞持 利行

3月2日(月)から国の要請を受けて始まった「臨時休校」から約一週間が過ぎようとしているところです。生徒の皆さんは、それぞれのご家庭でどのような生活を送っていますか。多くの生徒の皆さんが、これまで通りの日常の生活に早く戻りたい。高松中へ登校して、友だちや先生方に会いたいと考えているのではないのでしょうか。私自身も、一日も早い「新型コロナウイルス」の収束を祈るばかりです。

さて、「時季」という言葉を皆さんは知っていますか。「時季はずれ」と言えば分かると思いますが、時節・季節のことをいい、英語では〈Season:シーズン〉と言います。この世の中で生きているすべてのものが、季節の移り変わりの中で成長し、一生を過ごしていきます。皆さんのような若い人は、1日(あるいは1ヶ月程度)単位で生活しているのではなかとありますが、年を重ねるにしたがって、半年、1年と長い単位で暮らすようになります。つまり、それだけ先を見通せるようになり、よりよい生活(人生)設計ができるのです。こうすることができるようになることを『大人になる』というのではないのでしょうか。例えば、農家の方たちは、いつどんな種をまけばよいかを知っています。まく時を間違えたら成長が遅れてしまったり、実のならない時もあります。当たり前のことかも知れませんが、季節の移り変わりを見つめながら先を読んで行動しているのです。私たちの人生でも同じことが言えるのではないのでしょうか。人間が社会生活を送っていく上で何が必要か、いつ、どんなことをしなければならないのかなど、その種をまく時があると思います。人生での潮時(しおどき:ちょうどよい時期)を誤ると、どんなに努力しても期待通りの成果が上がらないことがあります。このことは大人ならば、自分の失敗経験から知っているはずですが。人生の種をまく時は、何と言っても皆さんの年代、つまり10代です。本を読んだり、計算力を身に付けたりという、学校での教科の学習はもちろんのこと、それ以外にも人として学ばなければならない、道徳性(人間としてあるべき態度)や礼儀作法、さらに現在では、国際化や情報化という世の中の流れにふさわしい能力やマナーを身に付けなければなりません。若いうちにそれらを習得しなければ、将来後悔することになりかねません。

歳月は人を待ってはくれません。人生の種をまく時季はまさに今の皆さん、中学生(高校生)の時代なのです。その時季を大切に過ごしてほしいと思います。



高松中学校の3学期の行事

年度の締めめの3学期。1月はお正月気分の抜けきれない中、席書会から始まり、百人一首大会、学習展示週間と高松中のよき伝統文化に親しむ期間でした。1月20日（月）～25日（土）まで行われた学習展示週間に飾られた作品は、どれも素晴らしく、高松中生のそれぞれの個性を感じさせてくれるものでした。限られた製作時間の中で集中して取り組んでいた姿が想像できます。何にでも一生懸命に取り組む高松中の生徒の様子をご紹介します。



席書会



百人一首大会



アンサンブルコンサート



学習展示週間



Pepper発表(プレゼン)



3年社会科特別授業



2年校外学習



1年ものづくり授業



セーフティ教室

3年生は、この3学期、受験という大きな壁に立ち向かって参りました。その結果としてこれまでの努力が実り、一人ひとりが希望の進路を切り開くことができました。そんな3年生へ、「3年間、ご苦労様」という気持ちと「感謝」の気持ちを伝えたいと、1、2年生は『3年生を送る会』のために準備をしていた矢先の臨時休校。みんなの胸にぽっかりと空いてしまった穴、やり場のない虚しさを感じている人も多いのではないのでしょうか。今年は卒業に向けて、みんなでお祝いをしてあげることができないかもしれませんが、3年生と一緒に過ごした時間、思い出はみんなの胸に残っています。だから3年生諸君は、胸を張って高松中学校を卒業して行ってください。3年生の保護者の皆様も、本校のためにたくさんご協力いただきましたこと、本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。そして、これからもお元気で。